

令和元年(2019年)大分県議会10大ニュース



1 ラグビーワールドカップ2019日本大会大分開催の盛り上がり貢献

7月5日にラグビージャーナリストの村上晃一氏を招聘し、ラグビーの歴史や文化、観戦前に知っておきたいラグビーの精神等について講演会を議場で開催、機運醸成を図った。

また、大会期間中の第3回定例会では議場に大会旗を掲示。閉会日の10月3日には県立芸術文化短期大学の学生による演奏会を開催し、大会公式ソングや、イングランド、ウルグアイなどの来県チーム国ゆかりの楽曲で大分開催を盛り上げた。

2 県立武道スポーツセンターの完成(4月26日)と「第10回大分県武道祭」の開催(5月12日)

武道教育の推進や武道指導者の人材育成等のため、平成7年に請願が採択されて以降、署名活動等を通じ、県民と議会が一体となって建設を求めてきた県立武道スポーツセンターが大分スポーツ公園内に完成。こけら落としとして「第10回大分県武道祭」を大分県武道協議会と武道教育推進議員連盟が連携して開催。



3 新人9人を迎え、新体制の議会が始動



第19回統一地方選挙で新人9人を含む43人の議員が誕生。

5月15日の臨時会で、「県議会の取組に見える化し、県民と一体となった主体的・能動的な仕組みによる身近な県議会づくり」などを掲げ、麻生栄作議員が第73代議長に、土居昌弘議員が第99代副議長に就任した。

4 おおいた動物愛護センターの開所にあわせ、犬猫の適正な飼養に向けた政策を提言(3月18日)

県民と議会が根強く要望してきた、終生飼養や適正飼養の普及啓発、災害対応等の機能を備えた「おおいた動物愛護センター」が2月17日に開設。

全国的に高い水準にある本県の犬猫の殺処分頭数減少対策として、野良猫等の対策や譲渡率向上のための新たな取組、登録ボランティアとの連携強化など政策提言を行った。



5 東九州地域における陸上交通の高速化促進を要望(11月12日)



東九州自動車道の暫定2車線区間について、長年要望を続けてきた「宇佐～院内間」「大分宮河内～津久見間」の4車線化が新規事業として開始。また、「院内～速見間」「大分宮河内～佐伯間」が「優先整備区間」に選定されたことを受け、4車線化の早期実現を要望するとともに、東九州新幹線の整備についても、基本計画路線から整備計画路線への格上げを求めて、大分、福岡、宮崎、鹿児島との4県からなる「東九州軸陸上交通高速化促進4県議会議長連絡会議」が国に提言書を提出した。

6 天皇陛下御在位三十年に際し賀詞を奉呈(2月25日)、即位礼正殿の儀にあわせ賀詞を奉呈(10月22日)

いずれも全会一致で決定し、大分県議会として祝意を表するため、天皇陛下に賀詞を奉呈。



7 中九州横断道路国道57号大野竹田道路の開通に伴い、大分・熊本・宮崎の3県で交通基盤の更なる整備等について要望を整理(1月18日)



1月19日の大野竹田道路の開通にあわせ、大分・熊本・宮崎の3県からなる「九州中央3県議員連盟」の総会を竹田市で開催。高速道路網の整備状況、防災・減災・国土強靱化の今後の見通し等について、現状と課題を確認。

また、道路ネットワーク整備の進捗状況等を3県が報告し、交通基盤の更なる整備について、要望を整理した。

8 県内大学・短大生との意見交換会「おんせん県議会若者DAY」を開催(9月25日)

4回目となる「おんせん県議会若者DAY」では、初めての試みとして、時勢にあわせたテーマを設定。「若者の県内就職の促進」、「女性の活躍推進」について、26名の学生と議員が意見交換を行った。



9 議員出前講座を姫島村で初めて実施(11月21日)



県内各地で実施している議員出前講座を初めて姫島中学校で実施。議員が講師となり、県議会の仕組みや役割について説明。姫島ITアイランド構想や、10月31日から11月5日まで開催された「第10回日本ジオパーク全国大会2019おおいた大会」についてなど、地域に密着した話題について、生徒と意見を交換した。

10 九州各県議会議長会の臨時会を日田市で開催(2月8日)

九州経済フォーラムにあわせ九州各県議会議長会を日田市で開催し、九州地域連携の推進に向け一丸となって取り組むべき課題を共有した。

